

- flat 形「平らな」
- flatter 動「おせじを言う、へつらう」(マイナスの意味)
 - * 手のひらでなでつける → こびへつらう (揉み手?)
 - (良い意味での「ほめ言葉」は compliment)

あまりなじみのない言葉ですが、**toady** (おべっか使い、ごますりの人) という単語があります。この単語は **toad** (ガマガエル) と別の単語がくっついて、さらに短くなった単語といわれています。

✕ **toad** (ガマガエル) + **eater** (食べる人)
= **toad-eater** → **toady**

「ガマガエルを食べる人」がなぜ、「おべっか使い」になるのでしょうか。

ガマガエルは毒であると信じられていました。にせ医者が、人々を集めて実演をします。聴衆の一人 (実は、これがにせ医者の助手なのですが) が、ガマガエルを食べてしまいます。それをにせ医者が解毒して聴衆を信じさせるのです。ガマガエルを食べる役は、いくらボス (にせ医者) のためとはいえ、愉快的仕事ではありません。そこから、「上役のためならばなんでもやって、おべっかを使う人」という意味が現れたのです。

*

この章では、身近な単語とつながりのある単語を見てきました。中には toady のように意外なつながりを持つものもあります。こういった例は他にもあります。

cigar (葉巻) の語源について、**cicada** (セミ) と同じであるという説があります。これも形状の類似性によるのかもしれませんが。セミと葉巻って、なんとなく似ていますね。

第8章 辞書を使って語感を磨く

単 語の中には「なんだか似ている」と思えるものが、いくつもあります。そういうものは、たいてい語源的なつながり——共通の語根——を持っています。

語彙力を増やす、そして、忘れない・使える単語力、持続する単語力をつけるためには、語根に着目することが不可欠です。

この章では、単語に隠れている共通部分から語根の感覚を磨き、語根の醸し出す単語の雰囲気をつかんでいく具体的なやり方についてお話ししていこうと思います。

(1) 英英辞典の上手な使い方 — depend と rely の語感

まず最初に、

- 英英辞典を使って語感を磨く
- 似た単語の語感の差をつかむ

という作業を実際にやってみましょう。

この項では、筆者がお勧めした『コウビルド英英辞典』を使って語感の違いを調べてみます。

例として、depend と rely を取り上げます。この2つの単語の語感の差を、どのように調べ、また、身につければよいのでしょうか。

depend と **rely** は、どちらも「頼る」の意味です。「～に頼る」と頼る対象を表すときには **on** または **upon** が後ろにきます。